



寺崎誠三、二年ぶり二度目のステップス個展である。前回、前半は写真、後半は映像を出品した。今回はニューヨークに訪れた際の写真のみを展示した。大型プリント10点、中型プリント3点、小型プリント8点である。

そのため、現代のNYの筈が、遙か以前の、60年代のNYに見えてくる。それは、不可視な未来のNYでもあるのだ。そして、寺崎個人の視覚を乗り越えて、作品を見る者がNYに立ち会うことを可能にする。

三種類のサイズの写真は、同じものであっても全く異なる様相を呈す点が興味深い。大きいサイズは限りなくミクロに、小さいサイズは果てしなくマクロに感じるの、寺崎の写真が現代美術であることを示している。

瞬間を認識することは、容易でありながらも複雑な要素が混在する。何故なら人間は記憶を携えているからである。その記憶は、時には自らが捏造することすら可能だ。捏造と思いついていたら、本質である場合もある。

現代美術に素材、サイズ、時間、場所の制約を与えることは不可能である。「いま、ここ」が連続する現代美術はNYと東京を一瞬で往復し、写真を撮影した「その時」すらも乗り越えて、本質と根源を往復するのだ。

そのように思い込みで生きている人間を解放し、本来の姿に回復するのが現代美術の使命である。寺崎の視線を追うがいい。それはカメラマンの瞳孔ではなく、筆を持ち自らが発生させる線を見詰める絵描きの眼差しと同じである。

